彩の国 埼玉県
Saitama Cancer Center News

がんセンターだより

第 40 号
平成26年８月29日 発行
発 行
埼玉県立がんセンター
発行責任者
病 院 長
田 中 洋 一

基本理念 “唯惜命”

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、十分な医療情報提供と患者さんの自己決定権を尊重し博愛と奉仕の精神で医療を行います。

目次

精神腫瘍科の紹介……1
新副院長のご挨拶／新臨床腫瘍研究所長のご挨拶……2
～がんの転移抑制を目指して～がん転移抑制タンパク質NM23の機能解析と機能修飾
ペプチドアプタマー薬剤の開発／看護外来〈乳腺カウンセリングと乳腺看護相談〉……3
埼玉県立がんセンター新病院開院記念講演会・式典、祝賀会が開催されました／患者さんのための医療情報コーナーのご紹介…4

埼玉県のマスコット コバトン

「精神腫瘍科とは」

精神腫瘍科　医長
山田　祐

“精神腫瘍科”と聞いて、何を治す診療科だろう、どんな治療を行うところだろうと具体的なイメージを持てない方が少なくないと思われます。もちろん、精神に腫瘍ができることはありません。一言で精神腫瘍科を表現すると、がんの患者さんやご家族の方のこころのケアを担当している診療科です。

診断・治療技術が飛躍的に進歩しつつある現在においても、がんという病気が患者さんの身体や気持ちに及ぼす影響は未だに多大なものです。病名や病状を聞く、治療を受ける、病気が新たな局面を迎えるといった治療の経過の中で、気持ちが混乱して落ち込んだり、恐怖や不安を感じたりして気持ちが滅入ったりすることがあります。また、治療のための休職など社会生活の変化を余儀なくされ、精神的苦痛を感じたりすることもあるでしょう。ご家族もまた、患者さんを支えていく中で、患者さんとの接し方に悩んだり、生活が変化したりして、様々な苦悩に直面されているとお察しします。

これらのような、がん診療に関わる、患者さんやその御家族の方の気持ちの変調に対応するための診療科が精神腫瘍科です。この分野はがんの告知が一般的になった1970年代ごろから発展してきた比較的新しいものです。がん診療の専門病院においても、精神腫瘍科のある施設はまだ少数です。当院では平成22年4月に開設されました。現在は常勤医師２名と非常勤の臨床心理士1名の体制で、当院の精神看護専門看護師（リエゾンナース）とも連携しつつ、腫瘍の治療を担う科と相談しながら並行して診療しています。また、入院患者さんに対しては、緩和ケアチームの一員としても精神面の評価と支援を行っています。

診療は、これまでに抱えてこられたお気持ちについてのお話を伺うことから始めます。他者に話すことで、御自身を客観的に見つめなおして気持ちを整理するきっかけにして頂いたり、状況や症状に応じてお薬を用いたりします。

こころのケアを要する方は、決して少数の特殊な患者さんだけではありません。また、患者さんのご家族も、第二の患者と言われるほど精神的につらい思いを抱えているのが現状です。もし、これを機に精神腫瘍科の診療を希望される方がいらっしゃいましたら、どうぞお気軽に主治医を通してご相談ください。

埼玉県立がんセンターのロゴマークが公募により決定いたしました。

新副病院長紹介

副病院長
横田　治重

2014年４月１日付けで副病院長を拝命いたしました横田治重でございます。専門は婦人科がんの診療です。2004年４月に当院に着任し、婦人科部長として10年を過ごして参りました。一がん診療医として私がこれまで心がけてきたことは、広くいわれることでもありますが、病気を診るのではなく、病を得た患者さんを一人の人間としてとらえるということです。

一方当院の診療理念は、院内各所に掲げられているように“唯惜命(唯命を惜しむ)”というものです。ここに云う“命”とは、生物としての生命ではなく、一人一人が生まれてからこれまで家族や社会の中で生きて来た営みとしての“いのち”なのだと私は理解しています。私たち埼玉県立がんセンターの職員が、がんという病を得て、それまでになく深刻な立場に置かれた患者さんに向き合う時、“いのち”を最大限に尊重する医療を行えるために、私が置かれた立場から何ができるかを常に考えて職務に励みたいと考えます。何卒よろしくお願い申し上げます。

新研究所長紹介

臨床腫瘍研究所長を拝命して

臨床腫瘍研究所長
上條　岳彦

４月１日から臨床腫瘍研究所長として赴任して参りました上條岳彦です。前任地は千葉県がんセンター研究所で、主に難治がんの原因であるがん幹細胞の分子機構の研究、小児がんの遺伝子診断などを行っておりました。またバイオバンクの責任者として、バンキングの方法の検討、検体の管理・保管も担当しており、当センターでも今年度から設立が検討されているバイオバンクの設立に尽力して行く所存ですのでよろしくお願いいたします。

癌の研究は、現在では

1. ゲノム変異とゲノム変異に因らないエピゲノム変異を、正しく詳細な臨床情報が付加されている検体を用いて、次世代シークエンサーやマイクロアレイスキャナーなどの機器を使用して網羅的に解析して標的分子を見出す
2. 標的分子に対して分子細胞生物学的な実験を行い、その分子機能を明らかにする
3. この標的分子に対する分子薬理学的実験を行い、分子標的薬の開発を行う
4. 前臨床試験、臨床試験をへて新薬開発へ発展させる

というパスウェイが主流となっています。これまで臨床腫瘍研究所で行われてきた研究を継承・発展させ、さらにゲノム変異・エピゲノム変異を見出す解析を行って新たな標的を見出し、新規治療法の開発へ発展させるべく努力していきたいと思います。これを行っていく上で、臨床の方々との連携が欠かせません。前述のバイオバンクを発展させ、臨床研究の促進、パーソナル医療への支援を念頭に運営管理をしていきますので、新研究所並びにバイオバンクへのご理解、ご協力をお願いいたします。

看護外来

乳腺カウンセリングと乳腺看護相談

乳がん看護認定看護師
横枕　令子

乳癌は年々増加し、女性の12人に1人が罹患する時代と言われ、女性として仕事、妊娠・出産、子育て、介護など、多くの役割を担っている年代の方が罹患します。そのため、治療以外の問題を同時に抱えることが少なくありません。当センターでは2名いる乳がん看護認定看護師（以下乳がん看護CN）が看護外来を開設し、「乳腺カウンセリング」と「乳腺看護相談」を実施しています。「乳腺カウンセリング」は、これから治療が始まる患者全てを対象に、疾患や治療の理解を促進していただけるよう情報提供や、治療選択に関する意思決定支援をさせていただきます。2回目以降は「乳腺看護相談」としてご希望に応じてご利用いただくことができます。最近では、「乳腺看護相談」をご利用頂く方が多くなり、乳がん看護CNの看護外来を知っていただけるようになってきたことを実感しております。これからも、「乳腺看護相談」をご利用いただいた方に“相談に来て良かった。”と思っていただける看護外来をめざして実践していきたいと思っております。

乳腺看護相談のご案内　私たちが対応させていただきます

乳がんの治療や今後の療養生活のことなど乳がん医療にかかわるご質問やご相談にお答えいたします。お気軽にご相談下さい。

乳がん看護認定看護師
清水美津江

乳がん看護認定看護師
横枕　令子

相談方法

電話予約、もしくは診療科の外来看護師にお声掛けください。

★**当日相談の場合**：時間の調整をさせて頂きます。（当日対応が出来ない場合は、次回外来日などに合わせ予約をしていただくこともありますので御了承下さい。）

★**予約をする場合**：次回外来日や検査で来院される日程に合わせて予約をお取りいたします。

がんの転移抑制を目指して

がん転移抑制タンパク質NM23の機能解析と機能修飾ペプチドアプタマー薬剤の開発

臨床腫瘍研所
角　純子

がんに伴う死亡原因の90%は、がん細胞の周囲組織への浸潤と、他臓器への転移によるものです。がん治療成績向上のためには、転移の征圧が必須であり、そのための基礎研究が重要です。生命現象として浸潤と転移は互いに関係する多くの複雑な段階を経て成立しますが、そのいくつかの段階を促進する遺伝子や抑制する遺伝子が知られています。NM23は、がんの転移を抑制する活性が最初に証明された遺伝子です。NM23タンパク質は転移抑制の他にも白血病細胞の分化（成熟）抑制など、多くの機能が報告されていますが、どのようにしてがんの転移や分化を抑制しているのか詳細は不明です。

私たちはNM23タンパク質が、がんの転移抑制や分化抑制をどのようにコントロールしているのかを研究しています。さらに、がんの転移抑制を目指して、NM23タンパク質に特異的に結合し、その機能を促進あるいは阻害する新しい薬剤である高機能性ペプチドアプタマーの開発を進めています。文科省地域イノベーションクラスタープログラムという多施設共同研究を実施していますが、その研究で高速分子進化技術を用いて、NM23に特異的に結合する数種のペプチドアプタマーを取得しました。現在、がん細胞の浸潤能・転移能・分化能に対する生物活性を検討しています。治療が困難であるがんに対する高機能性ペプチドアプタマーの開発は、ペプチド創薬の重要なシーズ[種]になると考えて研究を進めています。

「埼玉県立がんセンター新病院開院記念講演会・式典、祝賀会」が開催されました

当式典が７月６日（日）、パレスホテル大宮で開催されました。

県内外の医療関係者、医師会、医療教育機関、国会議員、県議会議員など 250 名に及ぶ方々にお集まりいただきました。

がんセンター新病院のオープンを機に、新病院で展開していく最新のがん治療を関係者に発信するとともに、病院職員と関係医療機関、教育機関の関係者が一堂に会し交流を深めることにより、今後の更なる関係強化につなげようというのが、開催の趣旨です。

第１部では、がんセンター医師等による４つの講演が行われました。『ダ・ヴィンチ手術』、『次世代シークエンサーを用いたパーソナル医療』、『最新の放射線治療』、『パーソナルゲノム・エピゲノム解析から新規治療標的へ』。がんセンターにおける最新治療と未来の姿について紹介させていただきました。

第２部の式典では、病院事業管理者による式辞、知事あいさつ、そしてがんセンター病院長によるあいさつと新病院の紹介。それに続き、来賓である長峰宏芳県議会議長、金井忠男埼玉県医師会会長、野川和好伊奈町長から、新病院への大きな期待を込めたあいさつをいただきました。

第３部の祝賀会では、新たに決定されたがんセンターロゴマークの初披露、病院職員によるピアノ・フルートの演奏、がんセンターＯＢへのインタビューなどが和やかな雰囲気の中で進められ、出席者との交流の中で、更なる関係強化に結び付けることができました。

講演会の様子

知事あいさつ（式典）

「患者さんのための医療情報コーナーのご紹介」

図書館では、患者さんやご家族の方へ、がんに関するさまざまな情報を提供するため、また病気（がん）に対して正しい理解を深めていただき、治療に役立てていただくため、図書館の一角に「患者さんのための医療情報コーナー」を設置しております。コーナーには、がんセンター職員が選定した医学書をそれぞれの部位ごとにそろえております。

医学書の選定に当たっては、患者さんやご家族の方のご希望もお聞きするなどして、情報を探している方に寄り添うコーナーでありたいと考えております。

お探しの情報は図書館員がお手伝いをいたしますのでお気軽にお声掛けください。

図書館
近藤　祐子

最近受入れた図書のご案内（ほんの一部です）

★『がん治療の前と後　納得できる治療を受けて前向きに過ごすための手引き』　竹中文良　監修 2010 年
★『治療を始める前に読む乳がんの本』　2014 年
★『患者さんと家族のためのがんの痛み治療ガイド』　2014 年
★『心的外傷後成長ハンドブック　耐え難い体験が人の心にもたらすもの』　Lawrence G.Calhoun/〔編〕　Richard G.Tedeschi/〔編〕宅香菜子　2014 年
★『ドクター赤座の泌尿器がん最新情報　前立腺・膀胱・腎臓』　赤座英之／著 2014 年